

中上級聴解レベル分けのためのテストの試作と実施報告

酒井 たか子 関 裕子 二瓶 知子

要 旨

日本語中上級者の聴解クラスの学習者を5つのレベルに分けるために、聴解授業で求められる能力を想定したテストを作成した。大学での生活場面では聴解において単に「聞く」ことよりも、聞いて書くことや読みながら聞くといった文字を含む情報を扱うことが多いことから、テストの構成はディクテーションおよび内容理解の二つとした。内容理解では、特に数を扱った問題と重要語彙を書きとらせる要約問題を中心に取り上げた。受験者95名の結果を利用して、項目難易度、識別度およびGP分析による項目分析を行い、レベル分けテスト作成上の留意点を明らかにした。ディクテーションでは、問題作成にあたり、聞き取りが難しい音を前後から意味を考え、文を再構築する力、正確に名詞や数字を聞き取る力の両面から考える必要性があること、数字を扱った問題では、もの数え方や日にち、概念を表す語彙を含む問題が学習者のレベルチェックに有効であること、要約問題では、文の長さ・複雑さに加えて情報を整理し直す力を問う問題であることが、中上級者を分けるための識別度の高い問題を作成する際の要点として挙げられた。

【キーワード】 聴解 中上級日本語学習者 テスト 内容理解 ディクテーション

Field Test Report on a Japanese Listening Placement Test for Intermediate and Advanced Students

SAKAI Takako, SEKI Yuko, NIHEI Tomoko

[Abstract] Listening skills in the university environment are not simply a matter of listening, but more often, they involve gathering information from listening and reading or writing at the same time, such as when listening to lectures while taking notes or reading a text. Thus, with this assumption in mind, we designed a test in order to divide intermediate and advanced Japanese learners into 5 different levels for listening classes. The test is divided into two parts: dictation and comprehension. Questions involving numbers and summarization with keywords are the main focus of the comprehension part of the test. The test results from 95 examinees are analyzed according to degree of difficulty. Furthermore, a Good-Poor analysis was performed for each question based on these findings. This paper discusses important issues in a proficiency test design.

[Keywords] listening skills, intermediate and advanced Japanese learners, comprehension, dictation,

1. はじめに

筑波大学留学生センターの日本語補講コースでは、『Situational Functional Japanese』Vol. 1～3を主教材として学習する初級レベルの「一般日本語コース (Standard Japanese)」と、「文法」「話す」「聞く」「書く」「読む」「漢字」の各技能からなる中上級レベルの「目的別・技能別 (Japanese for Specific Purposes) コース」が開講されている。近年の学習者の急増および、将来的にも学習者の増加が見込まれる現状に伴い、中上級レベルのクラス設定の見直しが行われ、2010年度4月から新たなレベル設定による授業を開始した。見直しによる主な変更として、中上級レベルのJ500からJ700の3段階をJ900までの5段階にしたこと、各技能を同じレベルで3学期、1年間の開講としていたところを、各レベル1学期完結としたこと、進級の条件を同一レベルの複数の科目の成績で判定していたところを当該科目の成績のみにより進級判定を行うことにしたことの3点が挙げられる。

これらの変更を受け、技能別中上級レベル「聞く」では、J500からJ900までの学習目標および学習内容の再検討・再設定を行った。授業を実施するにあたり、各レベルに合った学習者が配置されていることが望ましい。しかし、各クラスにプレースメントテストを受験した新規の受講者と、以前から受講している継続受講者が混在しており、継続受講者は学期末の成績によりクラスが決定するため、同一基準で測定したデータがないこと、また、現行のプレースメントテストの中には、時間的な制約によりある程度の長さの内容を問う聴解問題は入っていないことから、レベルに適した学習者が配置されているかを授業開始時に確認する必要がある。そこで学習者を適切なレベルに配置することを目的としたレベルチェックテストを試作した。

本稿では、このレベルチェックテスト作成のねらいとテスト実施および結果を中心に報告し、そこから得られた中上級の学習者の聴解能力を把握しプレースするためのテスト作成に関する留意点を述べたい(注1)。

2. 調査の概要

聴解能力は、語彙、文法などの言語能力と、一般的知識力に基づく理解力および音声の理解力からなる。

また聴解では、通常、一度限りの情報を瞬時に理解することが求められる。リスニングにおける問題点としてHirai (1999) は、下記の3点を指摘した。

1. 内容を理解するために必要な語彙知識、統語的知識の不足
2. 語彙やフレーズの認識が自動化していないためスピードについていけないこと
3. 音韻知識が足りないため、文字を見たらわかる語でも音声による語彙提示の場合は意味と結び付けられないこと

さらに、話の中から流れを理解し、重要な部分とそうでない部分を判断し、重要な部分

のみ整理し、記憶していく作業や次に続くものを予測する作業も必要になってくる。

授業においても上記の内容を組み込んで各レベルの学習内容や目標を設定している。以下に具体的な講義内容としてJ700の例を示す。

中級中期の日本語学習者を対象に、日本語を聞き取る能力を向上させることを目的として授業を行う。やや専門的でまとまった独話を聞いて①話の展開を予測する、②話の流れを理解する、③メモを取る、④メモをもとに話の内容を要約する練習を行う。また数字の正確な聞き取り、擬音語・擬態語の理解と聞き取りの練習も行う。

テスト内容

一般に聴解テストは、文字提示に対する音声提示によるテストであり、そのためには文字の入らない問題にすべきだという考えがある。しかし大学生活における聴解能力を考えた場合、単に「聞く」ことよりも、聞いて書くことや読みながら聞くといった文字を含む情報を複合的に扱うことが多い。そこで語彙知識や文法知識、音韻知識、表記の能力などを統合的に取り入れたディクテーションおよび内容理解の2種類とした。内容理解は、二つのセクションに分け、特に数を扱ったセクション（内容理解1）、行動の予測やある程度の流れの中から重要語彙を書きとらせる要約問題を中心に取り上げたセクション（内容理解2）とした。問題の狙いや内容については4から6の各セクションで詳しく述べる。

音声材料は録音室にてICレコーダに録音し、mp3で編集した。時間はディクテーションが5分45秒、内容理解1が7分52秒、内容理解2が8分22秒である。

調査対象者

本研究で調査対象としたのは、筑波大学留学生センターの聴解の授業に参加している中級から上級の学生である。J500からJ900の各授業の初日に調査を行ったところ97名が受験したが、そのうち二回受験したもの、および一部しか受験しなかったものの2名をデータから除いた合計95名を分析対象とした。

3. 全体の結果

ディクテーション、内容理解1（数を扱った問題）、内容理解2（要約等）の3セクションの平均等を表1に示す。難易度は3セクションで0.50から0.61であり、受験者のレベルを判定するには適当であることがわかる。

表1 各セクションの記述統計

N=95

	問題数	合計点	最高点	最低点	平均 (SD)	難易度
1. ディクテーション	9	36	33	1	18.53 (7.92)	0.51
2. 内容理解1 (数)	7	7	7	0	4.28 (1.69)	0.61
3. 内容理解2 (要約等)	5	20	17	1	10.02 (3.97)	0.5

3セクションを合わせた合計得点は、問題数およびねらいとしているものを考慮してディクテーションと内容理解を1対1とし、二つの内容理解のセクションを同率で産出した。

セクション間の相関は、表2に示すようにディクテーションと内容理解1の間が0.52と、この中では比較的低い値となっており、ディクテーションと内容理解2の間は0.78と高い。処理する内容が異なるとともに、解答形式が内容理解1では選択式または数を記入する形式であり、ディクテーションおよび内容理解2では日本語での表記を求めていることがその理由として考えられる。

表2 各セクション間の相関

	1. ディクテーション	2. 内容理解1 (数)	3. 内容理解2 (要約等)	合計
1. ディクテーション	1			
2. 内容理解1 (数)	0.55	1		
3. 内容理解2 (要約等)	0.78	0.66	1	
合計	0.94	0.77	0.90	1

4. ディクテーション

4.1 目的

ディクテーションは、音読された文を聞いて、その語句を正確に書きとる活動であり、授業でも学習者の理解の程度を図るために有効な手段として広く用いられている。

現実にはすべての言葉を書きとる必要性がないことから、ディクテーションに対して否定的な見方を取る立場もあるが、正答に至るまでの過程において、さまざまな要素を含んでおり、また誤答からも学習者の習得の有無や弱点の情報が多く得られる。

正答に至るためには、以下のことができる必要がある。

個々の音素を聞き取り、単語として認識できる。

未知語の場合、音を聞き取り表記できる。

語彙が正しく表記できる。

同音異義語を文脈から意味を把握し正しい漢字で表記できる。

未知語の場合でも、文脈から意味を推測できる。

文法が理解できる。

ある程度のスピードで表記できる。

Oller (1974) は、言語能力の根底には共通の因子があると考え、総合力をはかるものの一つとしてクローズテスト、ディクテーション、リスニングが有効であると主張し、Listening Comprehensionとディクテーションの間に0.8程度の高い相関を認めている。

4.2 問題の概要

ディクテーションの問題文の難易に関しては、1. 文型・文法の複雑さ 2. 語彙の難しさ 3. 表記の難しさ 4. 音の要因が挙げられる。これまで授業で行ってきたディクテーション・クイズの結果等を参考にしてJ500からJ900までの各レベルに相当すると思われる問題を3文ずつ合計15文作成した。本稿ではその中から今回J700からJ900で共通に実施した9文を分析対象とした。

文法の難易としては、単文、複文、複雑な名詞修飾、可能形（忘れられません）、使役形（やめさせました）、自他の動詞（閉めていない、閉まっていた、開けておいた）、語彙としてはカタカナの言葉（カレンダー、スケジュール、チェック、イメージ）、同音異義語（○会場/開場、○意外に/以外に、○生産/精算）、数字（850人、5分の1、48,097人）、表記の難しさとしては、テ形（集まって、降って、作ってきて、持って帰って）、敬語（おっしゃった）、特殊音節の続くことば（従業員数、減少）、母音の無声化（的確に、し続けて）を考慮して文に入れ込んである。

ディクテーションにおいては、聞かせる回数が重要である。全体の意味を掴ませるために1回目は普通の速さで全文を通して読み上げ、2回目は文節で区切り、書くために必要な時間を与えた。最後の3回目として再び全体を通して読み上げた。読むスピードは、不自然に遅くならないようにした。

4.3 結果および考察

得点化するにあたり、本調査において時間的な経済性を考え各文を4つに分けて、それぞれを正解と照合することにより、完全解答の場合は正答とし1点、一か所でも間違いがあれば誤答として0点とした。表記に関しては、非漢字圏の学習者を考慮しひらがな表記でも可としたが、間違っている漢字表記は意味が理解できていないものとして誤答として扱った。

問題の項目分析の中で用いている識別度は、その項目の得点とテストの合計得点との相関から算出した点双列相関の値を示している。各項目が受験者間の能力の違いをどの程度明らかにできるかを示しており、0.3以上あれば「かなりよい」とされている。また、クラス配置の資料として具体的に上位群、下位群の正答率および解答傾向を知ることが有効であるので、本稿でも合計点の上位31名を上位群、下位31名を下位群として分析を行った。

表3の問題番号の(J600)等は、作成時にねらいとしたレベルを示す。レベル別の平均を見ると、J600の問題が12点満点のうち8.21、J700の問題が6.31、J800が4.01と順を追って難易度が上がっていることが分かる。識別度もそれぞれ0.79から0.88と高い値を示している。

表3 「ディクテーション」のレベル別正答率、標準偏差、識別度

大問 問題番号	満点	平均	標準偏差	識別度
1-2 (J600)	12	8.21	2.76	0.79
1-3 (J700)	12	6.31	3.25	0.88
1-4 (J800)	12	4.01	2.78	0.86
合計	36	18.53	7.92	0.94

次に、下記の3文について詳細にディクテーションの結果の特徴を見ることにする。

1-2-3 (J600) 大雨が急に/降ってきたので、/走るのを/やめさせました。

1-3-3 (J700) カレンダーで/来月の/スケジュールを/チェックしました。

1-4-3 (J800) 生産が減少し続けて/従業員も/5分の1の/48097人になった。

各文を/で4つに分け、それぞれの部分ごとの正答率等を表4に示す。

1-2-31「大雨が急に」の正解は、上位群が31人中29名、下位群は15人であるが、下位群の間違いは「大雨」が聞きとれず「おあめ」「お雨」、「急に」を数字の「92」や「9人」と表記している学生があり、全体的な意味が取れず聞こえてきた音の表記で止まっていることがわかる。1-2-32「降ってきたので」は、上位群正解者は28名、下位群は8名であり上位群の3名の間違いは「のて」であるのに対し、下位群は「・・・てきた」の部分がほとんど聞きとれていず、間違いの質の違いからも能力差が見えてくる。1-2-33「走るのを」は、発音上「のを」が長音になっているのを聞いて、文脈から理解できるかがポイントになっている。上位群は全員出来ているのに対し、下位群は6名のみで、「走るを」と3人が書いている以外は助詞の「を」が書けていない。

1-3ではカタカナの語彙が3つ含まれる文であるが、上位群/下位群の正答者数は、1-3-31「カレンダーで」が18人/6人、「スケジュールを」が26人/5人、「チェックしました」

表4 「ディクテーション」の各項目の正答率、標準偏差、識別度

N=95

レベル	問題	正答率	標準偏差	識別度
1-2-31 (J600)	大雨が急に	0.76	0.43	0.51
1-2-32 (J600)	降ってきたので、	0.59	0.49	0.57
1-2-33 (J600)	走るのを	0.57	0.50	0.66
1-2-34 (J600)	止めさせました。	0.80	0.40	0.48
1-3-31 (J700)	カレンダーで	0.40	0.49	0.37
1-3-32 (J700)	来月の	0.87	0.33	0.47
1-3-33 (J700)	スケジュールを	0.44	0.50	0.56
1-3-34 (J700)	チェックしました。	0.52	0.50	0.44
1-4-31 (J800)	生産が減少し続けて	0.24	0.43	0.51
1-4-32 (J800)	従業員数も	0.13	0.33	0.43
1-4-33 (J800)	5分の1の	0.34	0.48	0.48
1-4-34 (J800)	48097人になった。	0.16	0.37	0.25

が24人/6人となっており、特に下位群には難しいことがわかる。識別度を見ると、スケジュールが最も高く、カレンダーが低い。カレンダーの場合は、上位群で「カレンダー」と6人が書いており、母語の発音の影響でそのように聞き取ってしまい表記したことが考えられる。1-4-31「生産が減少し続けて」では、上位群のみ17名正答しているが、間違いの中では「し続けて」の無声化された母音を聞き取れなかったケースが多い。1-4-32「従業員数も」も、上位群のみ12名の正答で、「従業員数」という長音の連続から聞きにくいものになっている。「従業員数」という誤答が8名あり、学習者の知っている語彙に結び付けた誤りである。1-4-33と1-4-34はともに数字が含まれる問題だが、とくに「48097人」の正解は7人のみと大変難しい問題であったことがわかる。

以上から、ディクテーションにおいて、聞こえなかったり、聞こえにくい音を前後から意味を考え、文を再構築する能力、正確に名詞や数字を聞き取る能力の両面からディクテーションを考えていく必要があることが分かった。

学習者にとって難しい課題は聞こえてきた音を書くだけで余裕がないが、易しいものは、ボトムアップの聞き取り後に全体の内容を理解できたところから再構築したり、同音異義語を後から訂正するなど、トップダウンの情報を加えて確認することができる。と考える。

ディクテーションは正解との照合であるため、表記の許容範囲以外は迷うところは少ない。しかし受験者が多い場合はさらに時間的な効率のよい採点法が求められる。全文ディクテーションの中から見るべきポイントを取り出し、採点はその個所だけとする方法や、

空欄を埋める形式のクローズ・ディクテーション (clozed dictation) にする方法などが考えられるが、今後の課題である。

5. 内容理解1 一数を扱った問題一

5.1 目的

学習者は日常生活および大学での学習・研究において、数量や順序、時などの情報を日本語で聞いて理解する能力が求められている。スーパーでの買い物、事務室で書類の提出期限や注意事項を聞く、指導教官とアポイントをとる、といった日常的な場面から、実験で得たデータの聞き取りや実験の指示の理解といった専門的な場面など多岐にわたる。単に数字や「ひとつ」「ふたり」「第三」「四日」「5割」といった数を含む情報を正確に聞き取ればよいだけではなく、その文脈の中で重要な情報を瞬時に整理して、的確な処理をしなければならない。また、数を含む情報を聞き取る力は、日本語学習を開始したばかりの段階から上級に至るまで、そのレベルによって難易度に差があるものの、共通して求められるものである。しかしながら、日本語が初級後半から中級といわれるレベルに達しても、数を含む情報の聞き取りが弱い、聞き取った情報を整理し、処理する力が十分ではない学習者が少なくない。

また、「日本語では純粋に数の概念のみを表現することは少なく、助数詞を付けた数詞が、かぞえる対象に応じて、そのものの範疇をも表すものとして使い分けられる」(日本語教育学会、1995) ため、それらの知識の有無が正確な聞き取りや判断に影響する。初級レベルの学習項目である「ひとつ」「ふたり」といった数え方や「ついたち」「ようか」といった日にちの表現が十分に習得されていないために、実際のコミュニケーションにおいて支障をきたすことも見受けられる。

以上のことから、数を含む情報を聞き取る力が、学習者の日本語の語彙力、情報を正確に聞き取る力、情報を整理する力のレベルを測ることができると考え、レベルチェックテストの1セクションとして取り上げることにした。

5.2 問題の概要

「数を扱った問題」は、日本語能力試験(注2)(以下JLPT)の「聴解」の過去出題問題の中から、数を含む情報の聞き取りが含まれる問題をピックアップし、それを参考に作成した。参考の対象とした問題には、「2分の1」「半分」「半額」「奇数/偶数」といった、語彙知識を問うものも含まれている。問題作成にあたり、参考にしたJLPT過去出題問題を表5に示す。

技能別クラスでは、J500が中級前期(前半)、J600が中級前期(後半)、J700が中級中期、J800が中級後期、J900が上級に設定されていることから、J500、J600であればJLPT3級、

J700、J800であれば2級、J900であれば1級の問題が正答できるレベルに相当すると考えた。

表5 「内容理解1」で参考にした日本語能力試験過去問題

問題番号	参考にした日本語能力試験聴解問題
	年度／級／問題
2-1 (J500)	H17／3級／問題Ⅱ 1番
2-2 (J600)	H16／3級／問題Ⅱ 2番
2-3 (J700)	H15／2級／問題Ⅰ 5番
2-4 (J800)	H16／2級／問題Ⅱ 11番
2-5 (J800)	H16／1級／問題Ⅰ 10番
2-6 (J900)	H10／1級／問題Ⅰ 2番
2-7 (J900)	H16／1級／問題Ⅰ 11番

実際の問題はJLPTの形式を参考に、今回のレベルチェックテストの目的に合わせ、語彙や表現を適宜修正して作成した。また、日本語能力試験の聴解は4つの選択肢から正答を一つ選ぶ形式であるが、レベルチェックテストでは、より現実に必要とされる処理に近い聴解力、問題解決能力を測定するために、選択肢は与えず、主に記述で答える形式で作成した。以下に、参考にしたJLPT過去出題問題と、今回作成した問題の例を示す。下線部分は、変更箇所である。

平成17年度3級聴解問題Ⅱ 1番

男の人と女の人が話しています。男の人はコピーを何枚用意しますか？

M：部長、このコピーは何枚用意すればよろしいでしょうか。

F：そうね、会議に出席する人は全部で30人だけど、それより10枚多くコピーしておいてくれる？

M：分かりました。

男の人はコピーを何枚用意しますか？

1. 10枚です。
2. 20枚です。
3. 30枚です。
4. 40枚です。

レベルチェックテスト「数を扱った問題」 1

男の人と女の人が話しています。男の人はいすをいくつ用意しますか。

M：部長、いすはいくつ用意すればよろしいでしょうか。

F：そうね、会議に出席する人は全部で30人だけど、それよりやっつ多く用意しておいてくれる？

M：わかりました。

男の人はいすをいくつ用意しますか。

5.3 結果および考察

表6 「内容理解1」の各項目の正答率、標準偏差、識別度

N=95

問題番号	問題	正答率	標準偏差	識別度
2-1 (J500)	いすの数	0.63	0.48	0.60
2-2 (J600)	払ったお金	0.94	0.24	0.37
2-3 (J700)	出来た形	0.83	0.39	0.40
2-4 (J700)	勉強会 (月・日)	0.19	0.39	0.39
2-5 (J800)	肉の値段	0.92	0.28	0.35
2-6 (J900)	鍵の番号	0.34	0.48	0.52
2-7 (J900)	大学に行く日 (2日)	0.45	0.50	0.56

表6は「内容理解1」全7問の各項目の正答率、標準偏差、識別度である。識別度を見ると、正答率の高い問題(2-2、2-5)と、低い問題(2-4)は識別度が0.35~0.39と低く、2-1のいすの数、2-6の鍵の番号、2-7の大学に行く日を答える問題(正答率0.34~0.63)の識別度が0.5以上と高いことがわかる。本節では、識別度が高かった2-1、2-6、2-7について考察を行う。

2-1は、5.2で問題作成の例に挙げたものである。この問題は、「会議に出席する人は全部で30人だけど、それよりやっつ多く用意しておいてくれる？」の「30人」と「やっつ」が聞き取れるかどうか、さらに「それよりやっつ多く」を聞き取り、情報を処理することが、答えを導く鍵となる。正解者は上位群が31名中29名、下位群が31名中7名であった。誤答の内容を見ると、半数が「30/30以上/30より」と答えていることから、最初に聞き取った情報「30人」に気を取られ、その後の情報に注意が向けられなかったこと、「それよりやっつ多く」の聞き取りと処理がうまくいかなかったことが誤答の原因として考えられる。

2-6は、5桁の鍵の番号を答えるものである。この問題を解く鍵は、「偶数」という語彙の聞き取りと、「最後の2つの数字を取り替える」という情報を聞き取って処理できるかどうかである。この問題の正答率は、0.34と低く、上位群では18名が正解しているが、下位群では正解者が0であった。誤答の内容を見ると、「1234」「1243」のように「偶数」という語彙が聞き取れなかった、あるいは、語彙知識を持っていなかったと思われる回答が20と最も多く、「偶数」は聞き取れている解答では「2468」「2466」「8462」「8642」「2424」があり、「最後の2つの数字を取り替える」を適切に処理するまでには至らなかったことが考えられる。

レベルチェックテスト「数を扱った問題」6

男の人と女の人が、かぎの番号を決めています。番号はどうなりますか。

M：このかぎ、いいだろ。自分で番号が決められるんだ。

F：へえ。

M：番号、何番にしようかな。

F：覚えやすいけど、ほかの人には簡単にわからないものもいいよね……。

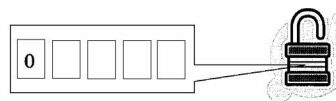
M：順番とかになっていけば、覚えやすいかな。

F：じゃあ、0からはじめて偶数を並べたらどう。

M：そうだね。それから、最後の2つの数字を取り替えるってのはどう。

F：あ、それいいね。

番号はどうになりましたか。



2-7は、事務員と男子学生のやりとりを聞き、男子学生が大学に行く日（計2日）をカレンダー上に○をつけて答えるというものである。正答を導くためには、「人文社会科学研究所の説明会は6日」「健康診断は9日」「二日とも必ず来てください」の「6日」「9日」「二日とも」を聞き取り、さらに、「9日は都合が悪い」「前の日でもいい」を掴み、日にち変更の処理を行わなければならない。正解者は上位群が25名、下位群が5名であった。また下位群では20名が2日分マークするところを1日のみ、または3日以上マークしていた。上位群では1日のみまたは3日以上マークしているものが3名いた。

識別度が0.5以上の問題1、6、7は、「やっつ」「6日」「9日」「偶数」といった物の数え方や日にち、概念などを表す語彙を聞き取った上で、「それより…多く」「取りかえる」「二日とも」といった情報を処理することが必要な問題であった。この点が、識別度の高い問題を作成する際の留意点になると考えられる。

レベルチェックテスト「数を扱った問題」 7

女の人と男の人が電話で話しています。男の人はいつ大学に行きますか。行く日にすべて○をつけなさい。

F : はい。筑波大学です。

M : あの、4月から大学院に入学するんですが、4月の授業はいつから始まるんでしょうか。

F : ああ、4月12日からですよ。

でも、その前に研究科ごとの説明会と健康診断が6日から9日までの間にあります。研究科はどちらですか。

M : 人文社会科学研究科です。

F : えー、人文社会科学研究科の説明会は6日です。それで、健康診断は9日ですから、2日とも必ず来てください。

M : あ、実は、9日は都合が悪いんですが…。

F : そうですか。どうしても無理なら前の日もいいですよ。

M : はい。わかりました。どうもありがとうございました。

男の人はいつ大学に行きますか。行く日にすべて○をつけなさい。

4月						
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18

6. 内容理解2 一要約等一

6.1 目的

聴解の中でも内容理解を問う問題は、1. 表面的な意味が理解できるか、2. 要点を自分なりに整理して理解・再構成できるかどうかなどの総合的な能力が求められる。当センターのJ500、J600の「聞く」では1.の表面的な意味を正確に理解する力を、J700からJ900では2.の情報を理解・再構成する力を身につけることを学習の目標としている。

情報を正確に理解し再構成するためには、単に語彙を正確に聞き取るだけではなく、すべての内容を話の流れを考えながら読み取り、自分の中で整理する力が必要である。そのような力は、学習者が大学での学習・研究において必ず求められる能力であるが、文法や語彙の表面的な理解だけでできるものではないため、中級後半になっても苦労する学習者が多い。今回は、表面的な理解力とそこからさらに1歩進んだ深い理解力を見ることで、聴解における総合的なレベルを判断できると考え、上記の1.2.を含めた、内容の理解度を測る問題をレベルチェックテストの1セクションとして取り入れることにした。

6.2 問題の概要と採点基準

今回は、初級が終わった程度の基礎的な学力（基本語彙、身近な内容）から、中級後期のやや専門性があり応用的な学力までを幅広く見るための1つの試みとして、それぞれのレベルで求められるであろう学力（今回は文章の長さや語彙の難しさを重視した）を想定した問題を5問用意した。

それぞれの問題は、「日本留学試験」の聴解・聴読解の問題を必要に応じてアレンジして使用した。使用した問題は表7の通りである。

表7 「内容理解2」で参考にした日本留学試験過去問題

問題番号	小問の数	配点	参考にした日本留学試験聴解問題 年度/回/問題
3-1-1 (J500)	1	2点	H17/2/聴読解6番
3-1-2 (J600)	1	3点	H18/1/聴解1番
3-2 (J700)	3	1点・1点・3点	H17/2/聴解17番
3-3 (J800)	5	各1点	H18/1/聴解6番
3-4 (J900)	5	各1点	H17/2/聴解18番

日本留学試験を使用したのは、日本留学試験が、聴解において必要な①直接的理解能力（言語としてはっきり表現されていることをそのまま理解することができるかどうか）、②関係理解能力（文章や談話で表現されている情報の関係を理解することができるかどうか）、③情報活用能力（理解した情報を使って論理的に解釈ができるかどうか）を基軸として作成されており、大学教育の場において理解が必要な場面（講義・講演、発表、質疑応答および意見交換、先生との会話など）で使用される構文・語彙・表現等をバランスよく含んでいると判断したためである。また、本来の試験問題は選択肢から正答を一つ選ぶ形式であるが、今回のテストでは、現実的に必要とされる処理により近い聴解力、問題解決力を測定するために、主に記述で答える形式（ただし問題2のみ選択式）で作成した。以下に、日本留学試験の出題問題と、それを参考に作成した問題の例を示す。

平成17年度第2回聴解18番

先生が夏休みの課題の内容について話しています。この先生は、レポートをどのようにまとめるように言っていますか。

1. いくつかの書評を要約し、それらの違いを比べる。
2. いくつかの書評を読み、それをまとめる。
3. 授業内容に関連した本を要約し、他の考え方などと比べる。
4. 授業内容に関連した本を読み、感想文を書く。

スクリプト：夏休みの課題はレポートにします。今学期の授業内容に関連したテーマを選び、それに関する本を1冊選んで書評を書いてもらいます。書評には、その本の基本的な紹介が最低限必要です。筆者は、どんなテーマについて、どんな視点から、どんな主張や結論を導いているかなど、要領よくまとめてください。その後で、必ず「論評」を書いてください。論評というのは、その本の内容について、自分の意見を述べ、その本を評価することですが、たんに自分の感想を書くだけでは論評とは言えません。論評の際には「比較」が必要です。その本の中に書かれていることと、自分の従来への考えや、他の文献に書かれていること、などを比較し、何が違うのか、その違いから何が言えるのか、ということを考えていくのです。

レベルチェックテスト「内容理解」問題5

先生が夏休みの課題の内容について話しています。テープを聞いて、論評を書く注意点をまとめなさい。

1. 本の内容について自分の意見を述べ、_____する。
2. 論評は、_____を書くだけではいけない。
3. 本に書かれていることと、自分の従来への考えや、_____に書かれていることを_____する。
4. その上で、何が違うのか、その違いから_____を考える。

スクリプト：夏休みの課題はレポートにします。今学期の授業内容に関連したテーマを選び、それに関する本を1冊選んで書評を書いてください。そして書評の後に、必ず論評を書いてください。論評というのは、その本の内容について、自分の意見を述べ、その本を評価することですが、たんに自分の感想を書くだけでは論評とは言えません。論評の際には「比較」が必要です。その本の中に書かれていることと、自分の従来への考えや、他の文献に書かれていること、などを比較し、何が違うのか、その違いから何が言えるのか、ということを考えていくのです。

選択式問題から記述式問題にするにあたっては、1) 語彙の知識や文法知識が問える問題、2) 流れを抑えながら重要なポイントをしっかりと聞きとり、まとめる力が問える問題になるように注意して作成した。

採点基準については、文法や漢字の間違いがあっても、内容を正しく理解している場合は正解とした。文法や表記のミスよりも、理解しているかどうかにより重点を置いたためである。また、配点は問題の難易度を考慮し、3-1-1を2点、3-1-2を3点、3-2から3-4を各5点とし、計20点とした。

6.3 結果および考察

各問題の平均点、標準偏差および識別度は以下の通りである。

表8 「内容理解」のレベル別正答率、標準偏差、識別度

大問 問題番号	満点	平均	標準偏差	識別度
3-1 (J500, J600)	5	4.44	1.08	0.48
3-2 (J700)	5	2.16	1.47	0.69
3-3 (J800)	5	2.05	1.47	0.74
3-4 (J900)	5	1.37	1.29	0.73
内容合計	20	10.02	3.97	0.90

レベル別の平均点を見るために3-1-1と3-1-2の問題を合わせて3-1とし、合計で5点とした。まず平均を見ると、3-1から3-4にかけて徐々に下がっている。これは問題が進むにつれ難易度を高くしたためである。また、識別度をみると、3-1以外は0.69以上と非常に高い値となっている。

本節では、6.2で取り上げた3-4を取り上げ、細かく検討を加える。3-4はJ900を想定した問題であり、平均点は低く難しい問題となっているが識別度が高い。

表9 「内容理解2」の各項目の正答率、標準偏差、識別度

N=95

問題番号	問題	正答率	標準偏差	識別度
3-4-1 (J900)	その本を評価	0.32	0.47	0.28
3-4-2 (J900)	自分の感想	0.18	0.39	0.46
3-4-3 (J900)	他の文献	0.39	0.49	0.56
3-4-4 (J900)	比較	0.31	0.46	0.57
3-4-5 (J900)	何が言えるのか	0.18	0.39	0.23

まず正答率をみると0.18~0.39とかなり低く、この問題が難易度が高い問題であったことを示している。上位群・下位群の平均点を見ても、上位群31名の平均点が5点満点中2.9点、下位群は正解者0であり、能力差を見る問題として適切であると言えるだろう。

次に各小問ごとの解答についてしてみると、3-4-2と3-4-5の正答率はともに0.18と低いが、識別度をみると、3-4-2が0.46、3-4-5が0.23と大きな開きがある。3-4-2は、「論評というのは、その本の内容について、自分の意見を述べ、その本を評価することですが、たんに自分の感想を書くだけでは論評とは言えません。」という部分から、「論評は、(自分の感想)を書くだけではいけない。」と埋める問題、3-4-5は「その本の中に書かれていることと、自分の従来を考えや、他の文献に書かれていること、などを比較し、何が違うのか、その違いから何が言えるのか、ということを考えていくのです。」という部分から「その上で、何が違うのか、その違いから(何が言えるのか)を考える。」を入れる問題である。どちらも音声の中に答えとなる表現が使われているので、それを埋めればよいものではあるが、どちらも1文の中の後半部分にその解答があるので、やはり長い文章を理解し記憶しながら聞き進めることが、学習者にとって大きな負担になっていることがわかる。3-4-2は上位群の中の13名のみが、3-4-5は上位群の中の11名のみが正解しており、聴解力が高いと思われる学習者にも3-4-5の問題は特に難易度が高かったことがわかる。なお、3-4-2の誤答例としては、「論評」や「自分の意見」というものが多かった。3-4-5は、無回答が一番多かったが、その次に、「自分の将来」「自分の視点」など、3-4-2の解答部分と混同している誤答が見られた。

次に、識別度が高い3-4-3と3-4-4の問題であるが、この問題は問題3-4-5と同じ部分「その本の中に書かれていることと、自分の従来を考えや、他の文献に書かれていること、などを比較し、何が違うのか、その違いから何が言えるのか、ということを考えていくのです。」から、「本に書かれていることと、自分の従来を考えや、(他の文献)に書かれていることを(比較)する。」を入れる問題である。それぞれの正答率は0.39、0.31でやはり低いが、識別度は0.56、0.57と高い。問題3-4-3、3-4-4と問題3-4-5は長い1文からその情報を2つに分けて処理する能力を求めた問題であるが、問題3-4-3と3-4-4は識別度が高く、問題3-4-5は識別度が低いところをみると、1文がどの程度長く複雑なものであるか、また、その1文から情報を分けて整理できるか、さらに、聞いた情報を順番に問われるのではなく整理し直せているかを問うことが、識別度が高い問題を作成する際の留意点の1つだと思われる。

7. まとめと今後の課題

「聞く」の5レベルの学生を対象に共通の聴解レベルチェックテストを実施したことで、これまで把握することが難しかった学習者の中上級レベルの聴解能力が明らかになった。また、それぞれのセクションごとに、レベル分けテストを作成する上での以下の留意点も見えてきた。

ディクテーション：聞き取りが難しい音を前後から意味を考え、文を再構築する力、正確に名詞や数字を聞き取る力の両面の力が測れる問題であること。

数字：ものの数え方や日にち、概念を表す語彙を聞き取り、さらに、条件を加えたり、情報操作を求める問題であること。

要約等：文の長さ・複雑さに加えて情報を整理し直す力を問う問題であること。

今後はこれらを考慮したうえで、さらに以下の4点についても検討を進めたい。

1. テストの妥当性の面から、授業担当者へのインタビュー等により、レベルテストの結果と学生のクラスパフォーマンスの関係、クラス終了時点での成績の予測を明らかにしていく。
2. 同じテストを繰り返し用いることの弊害をさけるため、テストアイテムバンクを作る。
3. 今後学習者の増加が見込まれるため、プレースメントテストに聴解テストを組み込むなど、効率よく学習者のレベル判定が可能となる方法を模索する。
4. 筑波大学留学生センターにおいて開発中の「筑波日本語スタンダード」の視点から、大学・大学院留学生に求められる聴解能力とはなにか、どういう問題であればその到達度が測れるかに沿って、テスト問題を整備していく。

謝辞

技能別「聞く」は他に、田中氏（J500）、石田氏（J600）も担当しており、レベルチェックテスト作成・検討の際には、貴重なコメントをいただいた。

注

- (1) テストの作成から分析まで、ディクテーションは酒井、内容理解1は関、内容理解2は二瓶が主に担当して行った。
- (2) ここで取り上げた日本語能力試験は、2009年までの日本語能力試験を指す。

参考文献

- 国際交流基金他（1999）『日本語能力試験出題基準』凡人社
- 独立行政法人日本学生支援機構『平成17年度日本留学試験（第2回）試験問題』ピアソン桐原
- 独立行政法人日本学生支援機構『平成18年度日本留学試験（第1回）試験問題』ピアソン桐原
- 日本語教育学会編（1995）『縮刷版日本語教育事典』大修館書店
- 日本語能力試験実施委員会他（2000）『日本語能力試験分析評価に関する報告書 平成10年

度』凡人社

日本語能力試験実施委員会他 (2005) 『日本語能力試験分析評価に関する報告書 平成15年度』凡人社

日本語能力試験実施委員会他 (2006) 『日本語能力試験分析評価に関する報告書 平成16年度』凡人社

日本語能力試験実施委員会他 (2007) 『日本語能力試験分析評価に関する報告書 平成17年度』凡人社

森篤嗣 (2009) 「母語話者の受験結果による日本語能力試験聴解問題の検証－小中学生の受験結果とアンケートからわかること－」『言語教育評価研究』第1号、言語教育評価共同研究所AELE編集委員会 桜美林大学、国際交流基金：34-46

Hirai, A. (1999) The relationship between listening and reading rates of Japanese EFL learners. *The Modern Language Journal*, 83 (3), 367-384

Oller, J. W. Junior, (1974) Cloze Dictation and the Test of English as a Foreign Language 245-252